



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 新型コロナとイベント活動

2022年・居場所の動き

新型コロナウイルス(COVID-19)感染はおさまらず、一昨年に引き続き「子どもの居場所」は、体温チェック、マスク着用、手洗い励行、空気清浄機設置などの感染防止対策をとりながらの1年が過ぎ、新しい年を迎えました。

昨年一年明けには居場所の引っ越しという大仕事がありました。平ヶ崎から「日光市民活動支援センター」に近い住宅への移動でした。お借りしていた住宅の清掃、荷物の整理、ごみの片づけ、そして転居先の清掃や設備の修繕。「本当に春休み中にできるのだろうか」という心配のなか、「なんにわ」を支えるみなさまの協力で無事乗り切り、新しい居場所での活動は予定どおり4月8日から始めることができました。大和証券福祉財団からの助成金も力となり、台所の整備や新しいエアコン、冷蔵庫、インターネット回線の導入も実現しました。コロナ感染が収まったのではと思われた6月は、「居場所オープンデー」もやってみたく、「つくって食べよう」の話も出ていましたが、夏が過ぎるとまた感染者が増加してきました。

その第7波が収まるきざしを見せた10月、いのくら児童クラブから「星を見る会、どうですか？」との電話。皆既月食がある11月8日、感染を防ぐため望遠鏡は使わず、午後6時過ぎに始まる月食を見物しながら、星空を楽しもうということになりました。3年ぶりの観察会です。当日、お天気は最高。西には「夏の大三角形」、南のフォーマルハウト(みなみのうお座1等星)、東には赤い火星、北極星の上に輝くカシオペア。月が地球の影にすっかり隠れてしまうまで、猪倉小学校の校庭で20人を超える子どもたち、保護者の方と星空の観察が続きました。感染に注意しながら、こんな野外イベントならOKだと思えた「星を見る会」でした。

12月になり、寒さとともにコロナ第8波が押し寄せてきました。当分はウイルス対策を続けなければなりません。そんな



な雰囲気です。クリスマスも過ぎた12月27日は居場所2022年の最終日でした。その日に集まったメンバーで、『ちょっと遅れのクリスマス会』やろうという提案がありました。冬休みに入り、久しぶりに居場所を訪れた中学生、エレキギターの寄贈に来所された方、その方を紹介してくれた支援センターのスタッフなどなど。感染対策のため食べ物なし、マスク着用でしたが、歌やギター演奏など、ふだんから練習している曲の披露やクリスマスソング演奏も始まり、にぎやかで楽しい音楽会になりました。

2月12日(日)には宇都宮で「こどもワカモノフェスタ」、3月11日(土)には「ボランティア・フェスタ」(大沢公民館)が予定されています。以前は、おもちゃ作りや電子工作など「活動展示」で参加していた「ボラフェス」、今回は活動紹介のポスターセッションで参加する予定です。休眠中の地域イベントにも「そろそろ始めようか」という動きがあります。長くお休みしている「勉強会」や「サイエンス・カフェ」そして、「オープンデー」。地域にアピールするイベントを次年度に向けて準備していこうと思います。

今年もみなさまの協力をよろしくお願いします。(手塚)

## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。  
(Tel : 090-3227-7079)

## 目次

新型コロナとイベント活動	1
学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会 参加報告	2
Arduino 電子工作+プログラミング	3
活動報告	3
こんな本はいかが？・60	4

## 居場所のひとこま

『地球防衛軍』。20年もの歴史を持つらしい。平ヶ崎のころからプレイステーションで人気のゲームでした。引っ越しのあとはしばらく使っていなかったのに「動くだろうか？」と心配でしたが、無事起動しました。初対面でも互いに情報を交換しあって数人で遊べます。子どもどうしてが教えあう様子も。(N)



## 「なんとなくのひろば」の活動紹介

### 学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会

「学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会」が2022年11月14日、宇都宮市の総合教育センターで開かれました。「不登校児童生徒の社会的自立に向け、本県における不登校児童生徒の実態に応じた効果的な支援の在り方について共有するとともに、フリースクール等の民間施設・団体と教育委員会等が、相互理解を深め、連携強化を図る」という目的で県教委・義務教育課が主催し、昨年を引き続き2回目の集まりです。担当の方から声がかかり、当会の活動を紹介する機会をいただきました。与えられた時間は10分。5枚のスライドにまとめました。内容を報告します。

まず、「子どもの立場で考え、親が交流できる場所を作ろう」とNPOづくりを始めた2004年から現在にいたるまでの「NPO なんとなくのひろば」のあゆみを2枚のスライドで手短かに話しました。スライド1は通信66号(2022/1/31)の年表を整理。スライド2は9年間お世話になった報徳会館の写真とともに以下の点を強調しました。

- (1) 当時の今市市との協議が進み、教育委員会の管理する「報徳今市振興会館」を「子どもの居場所」として使用できるようになった。2005年6月、毎週金曜日午後1時にオープン。
- (2) 日光市からの補助金を受けることができ、市教委の援助が大きな励みになった。週1日の開所から、次第に利用者も増え、週2回、週5回と開所日を増やした。
- (3) 2021年、新施設建設の計画により報徳会館が取り壊されることになった。居場所の今後を市教委と相談。市長提案を受け居場所を日光市の事業として継続することに決まった。
- (4) 理事より「義務教育にとどまらず、社会に出た後も継続できる支援を」との提案があった。定款に新事業を加えることが総会で承認され、2013年に相談支援事業「さくらそう」を開始。

3枚目は「子どもの居場所」でのふだんの活動と日光市委託事業となってからの居場所利用の流れについてのスライドです。後者については以下のように説明しました。

【問い合わせ、見学や相談を通じて居場所を紹介。本人が「来てもいいかな」となれば、図のような流れで利用登録をお願いしています。この手続きが完了しないと居場所に入れないというわけではなく、「とりあえず居場所で過ごす」のもOKです。支援日誌を作成し前月の記録を市教委に送ります。保護者の希望があれば在籍校にも同じものを送ります。これらの手続きは強制ではないことを伝え、利用者の秘密保持に配慮しています。家にいた不登校の子が「ちょっ

と行ってみようかな」とでかけて来れるよう配慮しています】

日光市からの委託事業のため、利用者の費用負担はないこと、スタッフ手当や施設費などの不足は会員からの年会費や寄付金をあてていること、行政の予算検討時期には、NPOとしての要望を市教委に伝えていることも、本活動の特徴として述べました。

4枚目スライド「指定特定相談支援事業・さくらそう」について活動内容を説明しました。下図はスライドの一部です。

**指定特定相談支援事業 さくらそう**

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、**社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場**を作り出します。

- 障がい福祉サービスの申請前の相談
- 申請をするときの支援
- サービス等利用計画の作成
- サービス事業者との連絡調整
- 社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」への出向

**日光市 放課後等デイサービス 9事業所**  
 担当：社会福祉課 障がい福祉係  
 小学生～50 / 中学生～30 / 高校生～20  
 福祉サービスとの情報共有 ⇒ 支援

児童福祉法にもとづく障がい児の通所支援、生活能力向上に必要な訓練、社会交流の促進などの支援を行う「放課後等デイサービス」が各地に展開しています。日光市には「放課後デイ」が9事業所(現在は10)あり、市内のおよその利用者数は、小学生50人、中学生30人、高校生20人です。「さくらそう」はこれら「放課後デイ」と連携していることを説明しました。

県内では300を超える事業所があるそうです。地域のさまざまな福祉サービスを把握し、連携する方向にも目を向けてほしいことを伝えました。

「さくらそう」とは別に、居場所活動として親同士とスタッフの交流の場「茶話会」も毎月開いています。不登校の子・家庭に「何かをしてあげたい」という思いで始まった居場所は、「不登校の当事者がおだやかに過ごせる場」、「親が交流できる場」として地域に根付いてきました。以上が4枚目のスライドです。

最後のスライドでは、これからの居場所について話しました。2016年に成立した「教育機会確保法」によって「学校に行くことがつらいときは休んでも良い」、「不登校は問題行動ではない」ことが認められました。加えて第13条には、学校以外の多様な学びについて、「一人ひとりに合った居場所と学習環境の確保について行政が必要な措置を講ずる」とあり、私たちが「子どもの居場所」を始めた頃の発想から、「子どもの学ぶ権利を保障する」という考えへの転換を促しているように思えます。不登校の子が求める支援が何なのか、どんな場所・方法がよいか、提案し見守り援助する支援がこれからは求められます。確保法の理念を現在の教育システムへ導入していくことは、単なる「民間委託」で収まる話ではありません。教育行政、福祉系の団体も含めた民間が共同し、「公教育」の在り方も含め慎重に見直していく作業となるでしょう。その作業が進んでいくうちに、教育に関わる、もちろん子どもたちも含めた、すべての人たちにとって、学校がより自由で楽しい場所になっていくことを期待しています。私たち「なんとなくのひろば」もこれまでの経験をふまえて協力していきたいと思えます。と、以上の内容で10分間(+2分間オーバー)の話を終えました。発表をまとめるために参考にした「日本学術会議2020年8月提言」の記事を含んだ通信69号を当日会場で配布しました。

県内から集まった約30団体、各市町村教育委員会担当者30名の方々に向け、連絡会の場で「なんとなくのひろば」の現状を知らせる機会をいただいたことに感謝します。今回のまとめは私たちにとっても、「不登校支援の過去・現在・未来」を考えるよいきっかけになったように思います。(手塚)

### 子どもの居場所・なんとなくのひろば 活動紹介

2013年4月より  
日光市委託事業  
市内の小中学生など  
毎週 月～金曜日  
土日・祝日は休み  
学校長期休業中も開所  
開所時間  
12時30分～16時30分  
日程なし、出入り自由  
スタッフ2名+有志  
費用負担なし  
見学自由

#### 居場所 利用の流れ

問い合わせ・紹介  
見学・相談

利用登録

子どもの居場所  
なんとなくのひろば

支援申請 手続き

支援委託

支援日誌  
(毎月作成)

日光市  
(市教委)

在籍校

支援手続：本人・保護者との話し合いと納得で  
利用者の秘密保持に配慮



# ☆ 活動日誌

- 10月28日(金) 通信「なんとなくのひろば」第69号 発行  
 11月 1日(火) 第110回 理事会  
 11月 8日(木) 星を見る会(いのくら児童クラブ)に協力(皆既月食)  
 11月14日(月) 茶話会(第122回)  
 11月14日(月) 学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会  
 11月27日(日) ベリー会(月例会)  
 12月11日(日) ベリー会(学習講演会)  
 12月12日(月) 茶話会(第123回)  
 12月16日(金) スマイル日光・寄付金申請書提出  
 12月27日(火) 2022年居場所じまい(クリスマス会)  
 1月 6日(金) 2023年居場所びらき  
 1月10日(火) 第111回 理事会  
 1月11日(水) 市教委・教育支援相談訪問 来所  
 1月13日(金) NPOだいじょうぶ・「あそびのにわ」開所式  
 1月29日(日) ベリー会(月例会)

## さくらそう関連：勉強会など

- 2022年度 日光市障がい者自立支援協議会  
 11月 9日(水) 相談支援実務者会議(第1回)  
 11月10日(木) 第10回 第6回ケース・事例検討会議「近藤式 伝達 研修」～グループワーク  
 11月12日(木) 第7回ケース・事例検討会議「近藤式 事例検討1例」  
 2022年度 栃木県強度行動障害支援者養成研修(実践)～オンライン研修～  
 11月15日(火) 強度行動障害の施策等講義  
 11月17日(木) 強度行動障害アセスメントの方法 グループワーク

暮れの「居場所じまい」の日に寄贈いただいた  
 トラムの美しいエレキギターです。  
 大切に使用させていただきます。

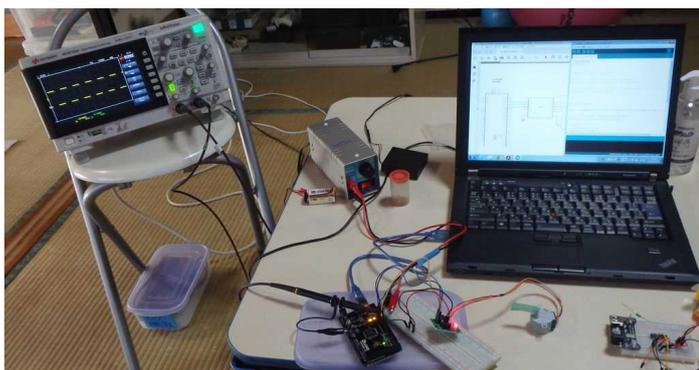


右上の黒い基板が「Arduino」  
 下は制御基板とICをのせたブレッドボードです

## Arduino — 電子工作+プログラミング

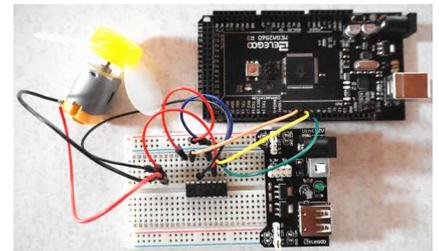
前回の通信で小型ボードPC、micro:bit(マイクロ・ビット)を使った「射的ゲーム」を紹介しました。micro:bit はイギリス放送協会(BBC)によって2015年に設計され、プログラミング教材として活躍しています。小さな基板に多くの機能とセンサを詰め込み、電池2本で動作する設計には感心させられます。基板1枚2千円ちょっとで購入できますとお知らせしていましたが、最近値上がりして3千円台になり、残念なことです。

居場所にはもうひとつ、Arduino(アルドウィーノ)という、小型ボードPCがあります。2005年ごろ、「シンプルな仕組みで動作する低コストPC」としてイタリアで開発されたそうです。下の写真は、Arduino+制御基板の組み合わせでモーターをコントロールしている様子。micro:bitでも同じことができますが、より深くデジタル回路とソフトウェアの関連について学びたいければ、こちらがおすすめです。本体基板と部品がセットになったスターターキットは6千円くらい。ネット通販価格は今のところ値上がりしていないようです。



Arduinoを使うためには、「IDE」というプログラム作成ツールをホストパソコンにインストールしなければなりません。プログラム言語はC++から派生した「Arduino言語」。

ほかに、Arduinoと接続するための設定や部品を並べるブレッドボードの扱いなど、若干の慣れが必要です。キットにはLEDの点滅、温度測定、ディスプレイへの文字表示、モーター制御などのサンプルが用意されています。マニュアルを見ながら回路を組み立て、プログラムを書いてArduinoに転送し、動作の確認ができます。2月12日の「子どもワカモノフェスタ」ではArduinoやmicro:bitのデモ展示を準備しています。興味のある方は声をかけてください。(福田、手塚)



## 居場所利用のお願い

新型コロナウイルス感染防止のため、以下の点に注意をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。

空気清浄機を導入+窓を開け、空気入れ替えを行っています。

- ▼ 密な空間を避ける(互いに手の届かない位置で)
- ▼ 大声での会話、同室での食事をしない
- ▼ マスクをきちんと付ける 　　ご協力よろしくお願いします。





## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## こんな本はいかが？ その 60

### 「くまとやまねこ」と「橋の上で」

文・湯本香樹実 絵・酒井駒子

今回は2冊の絵本を紹介します。  
どちらも同じ作家・画家による作品です。

#### ◎「くまとやまねこ」 2008年 河出書房新社

この絵本は、うつ状態の方のお話を聞いている時に、その方がとても心に残っている絵本として語ってくれた本です。

くまは仲良しの小鳥が死んでしまい、とても元気をなくしていました。森の動物たちに励まされても、ただただ悲しく部屋に閉じこもってしまいます。しばらくぶりで外に出たとき、バイオリンを持ったやまねこに出会いました。やまねこは、くまと小鳥のために曲を演奏してくれました。くまは曲を聴きながら、小鳥と過ごした日々を思い出し、心を慰めていきます。それから二人は「くまとやまねこ音楽団」として一緒に旅を続けるというお話です。

今、なんとにわでは音楽を楽しむことが増えています。音楽は心を癒す作用があることを実感しています。

#### ◎「橋の上で」 2022年 河出書房新社

この絵本は、テレビで誰かがおすすめの本として紹介をしていました。私は図書館で借りて、何度も読みましたが、深～い内容の絵本です。

一人の男の子が橋の上でちょっと変わったおじさんに出会います。男の子は「川に飛び込んだらどうなるだろう」なんて、考えていました。すると、おじさんが不思議な話をしてくれて、どこかへ行ってしまいます。男の子は大きくなって、おじさんのことを思い出したりはしないけど、おじさんが教えてくれた「あること」だけは忘れないでいます。その「あること」とは？

ぜひ図書館で借りて読んでほしい本です。 (白井)

## 会員について

正会員：51  
賛助会員：15  
団体会員：4

入会金なし  
年会費(一口)  
正会員 3,000円  
賛助会員

個人 5,000円、団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができず。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

## なんとなくのへや

2022年のノーベル物理学賞は「量子もつれ」の実験的検証に寄与した3人に与えられた。受賞者に日本出身の人はいないうえに、「量子力学の解釈問題」というテーマのせいかな新聞記事やテレビ報道はそっけなかった。前年の真鍋さんの受賞とはえらい違いである。知り合いから「分かりやすい解説を」と頼まれ、さて、まとめようとしてみたけれど日常の言葉での説明が難しい■量子力学は物質を構成する原子の性質や内部構造を記述するため、多くの天才たちによって20世紀前半に創られた。実験データを見事に説明する理論はできたが、その解釈について大論争があった。創始者のひとり、シュレディンガーは「生と死が半分ずつの状態が存在する猫」という思考実験を提案し、自分が基礎固めをした量子力学は不完全かもしれないと主張した■何が問題だったのか。はじめ一体であった小さな粒子が、何かの事情でふたつの粒子に分離したとする。「測定によって対象の物理状態が決まる」という量子力学の原理によれば、2粒子がどれだけ離れていても、片方の粒子を測定し物理量が決まると、その瞬間にもう一方の状態も決まるという奇妙なことが起こる。アインシュタインが「不気味だ」と言い、シュレディンガーは「もつれ」と呼んだこの直感に反する現象を実験で検証することは困難とされていた。その後、1980年に量子測定や制御技術を取り入れた実験家たちの努力によって「もつれ」の存在は確認され、今回のノーベル賞となった。この宇宙はそういうことになっており、量子力学を「不完全」と疑っているのは巨視的な世界に住んでいる私たち人間だけということなのだろうか■ノーベル財団は毎年の発表と同時に一般向け解説をネットに掲載する。その末尾には『まず、量子力学は私たちにトランジスタとレーザーをもたらした。今回の受賞者たちが進展させた「量子もつれ」の研究は、それらに加えて新たな「革新的な道具」を生み出そうとしている』とある。(T)